

第3章 倉敷市の地域特性

1 倉敷市の概要

本市は岡山県の南西部に位置し、南は瀬戸内海に面しています。市域の面積は356.07km²と県内で8番目の広さであり、東は岡山市、早島町、玉野市、西は浅口市、矢掛町、北は総社市と隣接しています。

広域連携として、高梁川流域の6市3町(新見市、高梁市、総社市、早島町、矢掛町、井原市、浅口市、里庄町、笠岡市)とともに高梁川流域連携中枢都市圏を形成しており、連携中枢都市として中心的な役割を担っています。

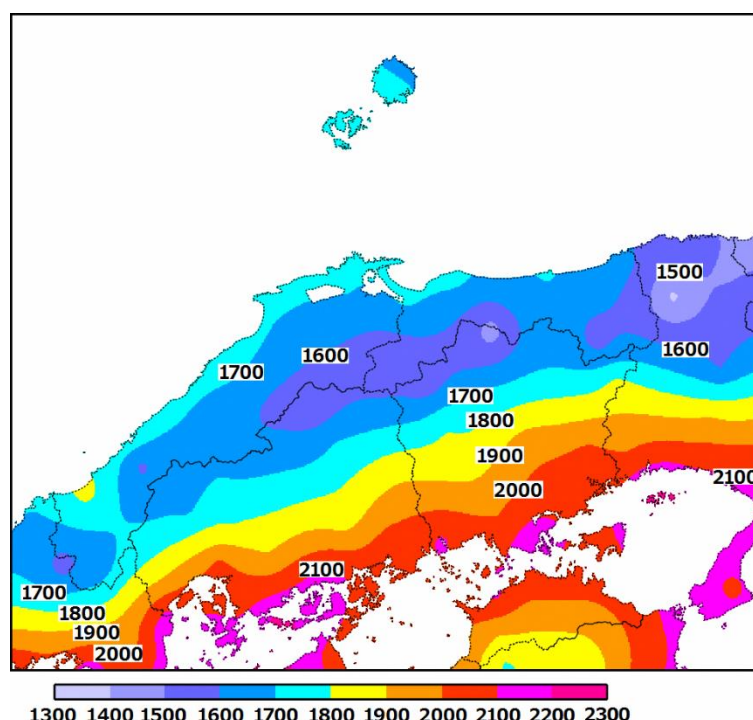
本市の気候は、温暖少雨な瀬戸内海式気候に属し、全国的に見ても晴天の日が多いことが特徴です。本市の年間日照時間の平年値(1991～2020年の30年間の平均値)は2,001時間であり、中国地方でも日照時間が多い地域となっています。

中国地方の年間日照時間の平年値

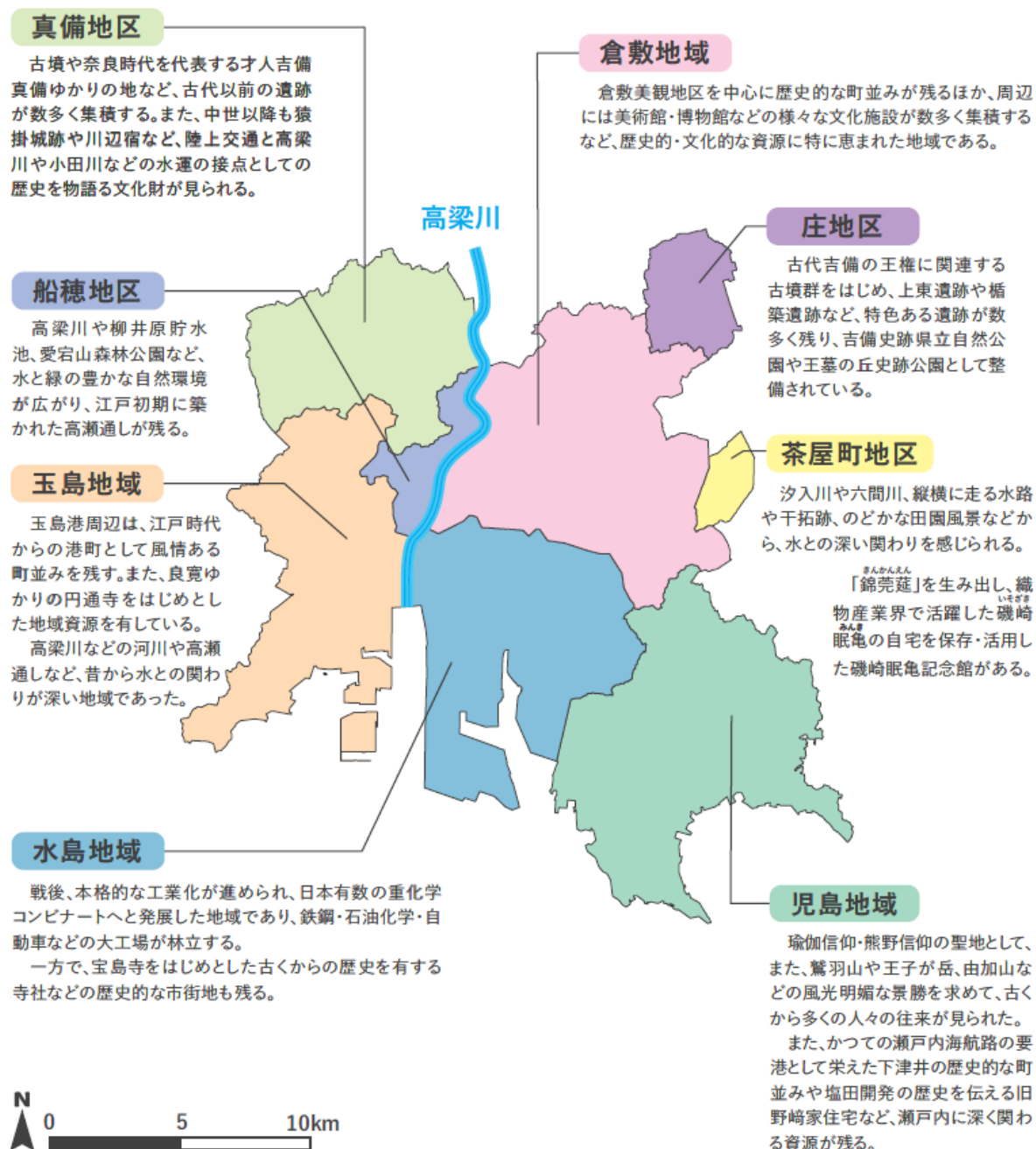
出典：気象庁ウェブサイト



▲本市の位置



本市は、倉敷地域、児島地域、玉島地域、水島地域、庄地区、茶屋町地区、船穂地区、真備地区からなっており、それぞれ様々な特性を有しています。

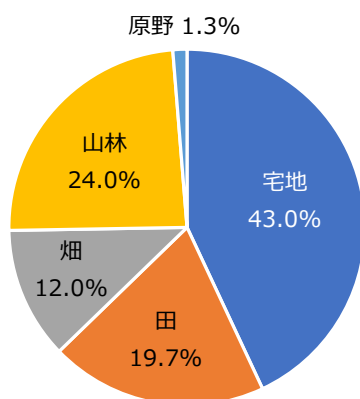


▲市内の各地域・地区の特徴

出典：倉敷市第七次総合計画

2 土地利用

本市の民有地面積の割合は、宅地が 43.0%、山林が 24.0%、田が 19.7%、畑が 12.0%、原野が 1.3%となっており、高梁川流域圏の 7 市 3 町の中でも宅地の割合が早島町の 53.2%に次いで 2 番目に高くなっています。



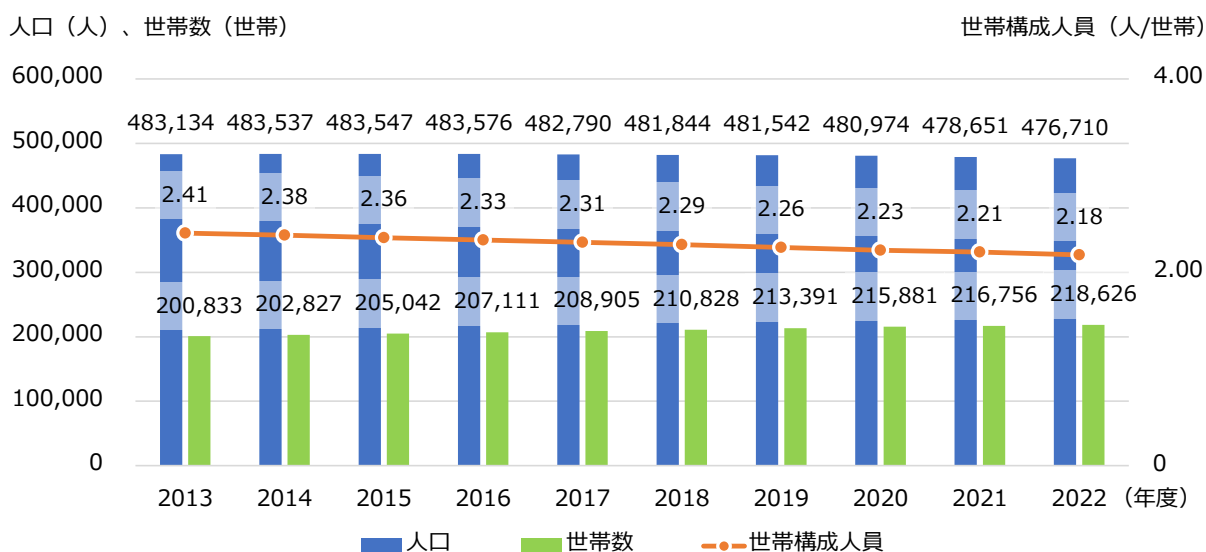
▲民有地面積の割合(2022 年 1 月 1 日現在)

出典：岡山県統計年報

3 人口・世帯数

本市の人口は、2016 年度の 483,576 人をピークに減少に転じ、2022 年度末には 476,710 人となっています。「倉敷市第七次総合計画」では、今後も減少傾向が続くものの、人口の自然増や社会増及び地域連携の推進等の取組により、2045 年には 459,000 人程度を目指すとしています。

人口減少に対し、世帯数は増加傾向であるため、世帯構成人員は減少しており、2022 年度末には世帯あたり 2.18 人となっています。



▲市の人口と世帯数の推移(各年度 3 月 31 日現在)

出典：倉敷市統計書、倉敷市ホームページ

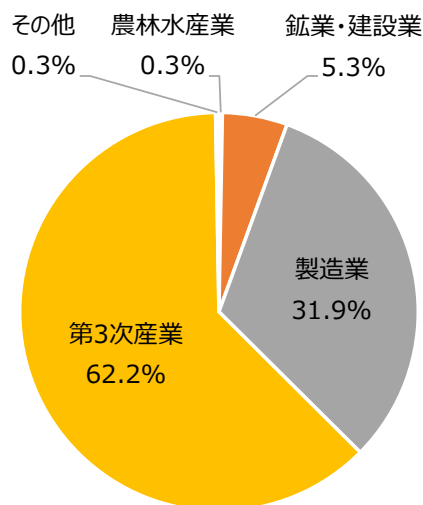
4 産業

2019 年度の市内総生産は 1 兆 9,016 億円です。県内では、岡山市に次いで 2 番目であり県全体の約 24%を占めています。

業種別に見ると、水島コンビナートを中心とした製造業の割合が高いことが本市の大きな特徴であり、市全体の 31.9%を占めています。



▲水島コンビナートの全景

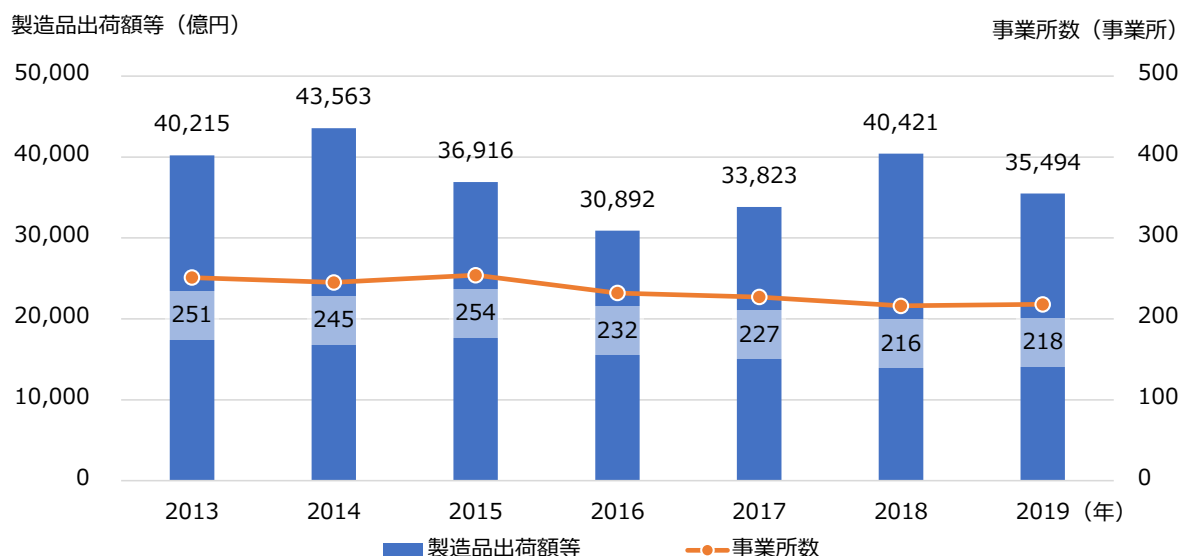


※第3次産業は、電気・ガス・水道・廃棄物処理業、卸売・小売業、運輸・郵便業、宿泊・飲食サービス業、情報通信業、金融・保険業、不動産業、専門・科学技術、業務支援サービス業、公務、教育、保健衛生・社会事業、その他のサービスの合計

▲市内総生産(2019 年度)

出典：令和元年度市町村民経済計算(岡山県)

水島コンビナートの製造品出荷額等は、4 兆円前後で推移しており、内訳としては石油製品・石炭製品製造業が最も多く、次いで鉄鋼業、化学工業となっています。また、岡山県全体の製造品出荷額等に占める割合は、2019 年度には 46.1%となっており、岡山県下における製造業の重要な役割を担っています。



▲水島コンビナートにおける製造品出荷額等及び事業所数の推移

出典：倉敷市統計書

～水島コンビナート～

水島コンビナートは、瀬戸内海に臨む総面積約 2,500ha に 200 を超える事業所が立地する全国有数の重化学コンビナートであり、石油精製、鉄鋼生産、石油化学・鉄鋼関連化学工業、自動車工業、各種機械工業等、日本を代表する企業が多く立地しています。

水島コンビナートは、素材型産業が集積し、エネルギーを多く消費していることから、産業部門からの温室効果ガス排出量が市全体の約 8 割を占めています。しかし、これらの企業では、カーボンニュートラル実現に向け、脱炭素型の製造プロセスや製品に関する技術開発が日々行われており、私たちの暮らしに欠かせないものを作るとともに、倉敷市のみならず全国規模での温室効果ガス排出削減に貢献しています。

また、水島コンビナートの美しく光る夜景は「夜景 100 選」にも選ばれ、観光スポットとしても注目されています。

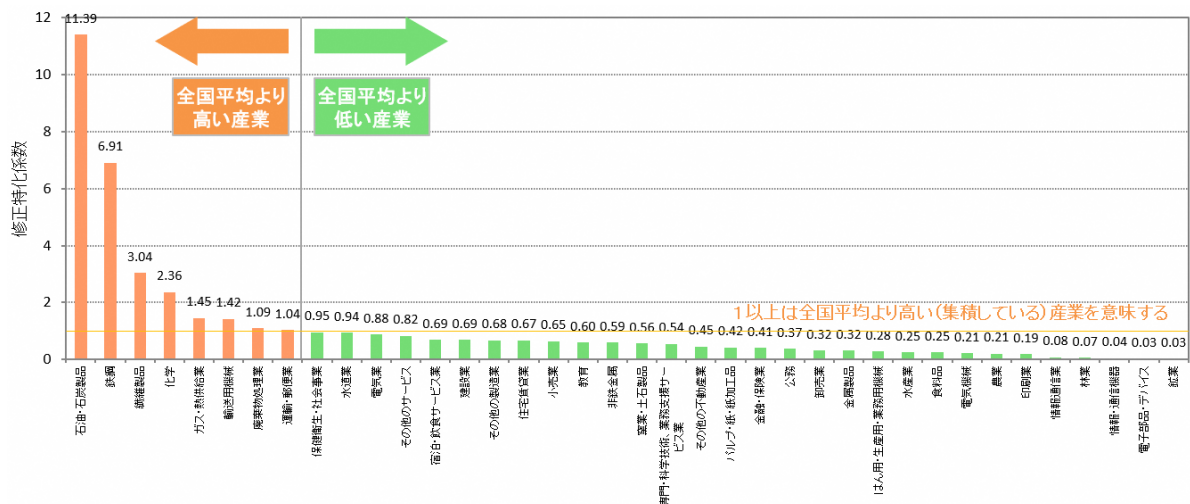


▲水島コンビナートの夜景

～地域経済循環分析自動作成ツールによる分析～

国は、地方公共団体等の環境施策立案に資することを目的に、地域の経済循環構造を把握する「地域経済循環分析自動作成ツール」を提供しています。

「2018 年版」のデータによると、産業別修正特化係数（全産業の生産額に占める当該産業の生産額の割合）が全国平均と比較して高い産業は、優位な産業と言えます。本市では、石油製品・石炭製品製造業、鉄鋼業、繊維製品製造業、化学工業等 8 業種が全国平均と比べて優位な産業であることが分かります。

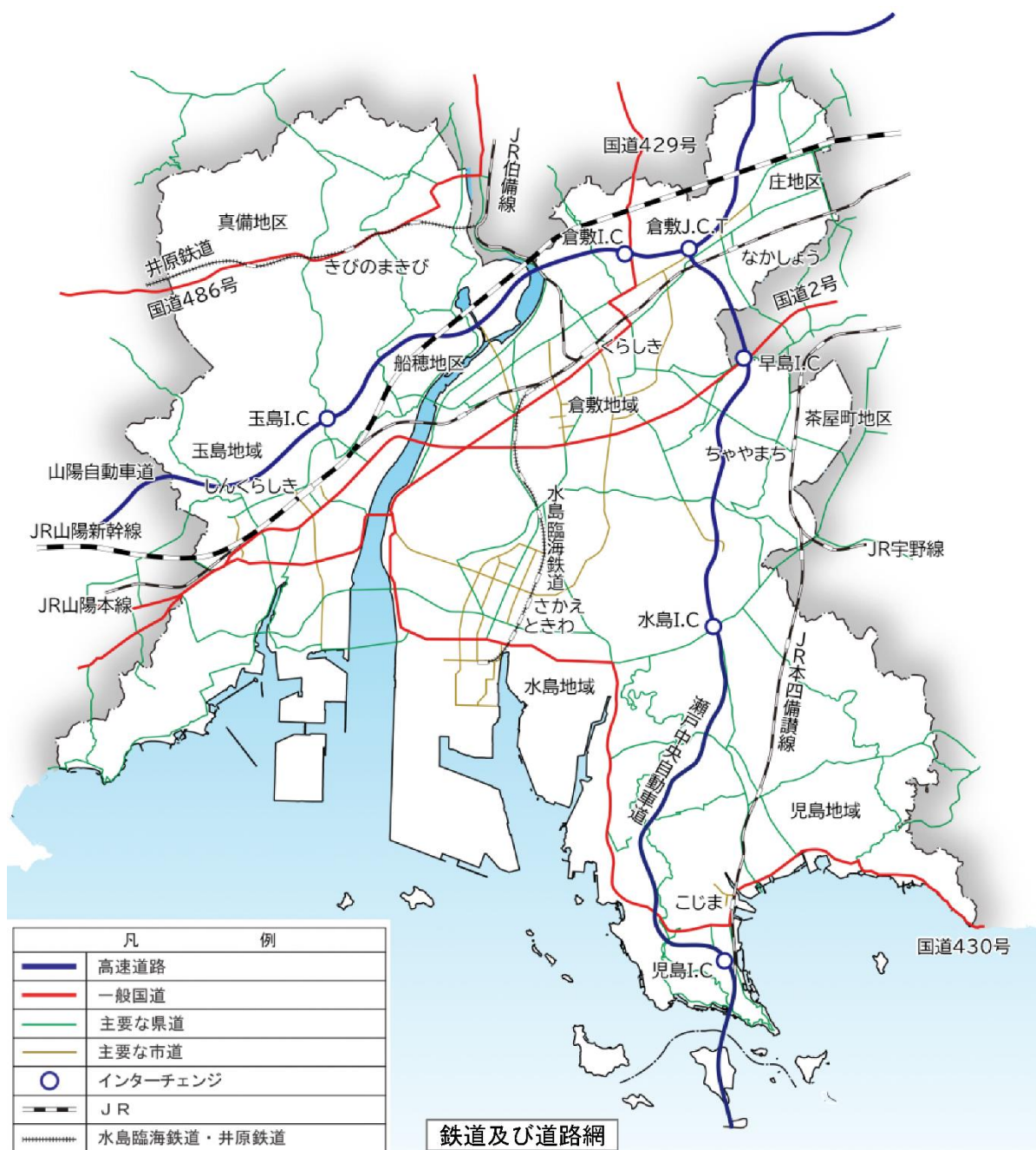


▲産業別修正特化係数（生産額ベース） 出典：地域経済循環分析（環境省）

5 交通

本市は、東西に国土軸を形成している基幹的交通軸上にあるとともに、南北にも四国や山陰と結ぶ広域交通網の結節点として、道路・鉄道等の主要な交通網が集中しています。広域的な高規格幹線道路としては、山陽自動車道、瀬戸中央自動車道が整備されています。

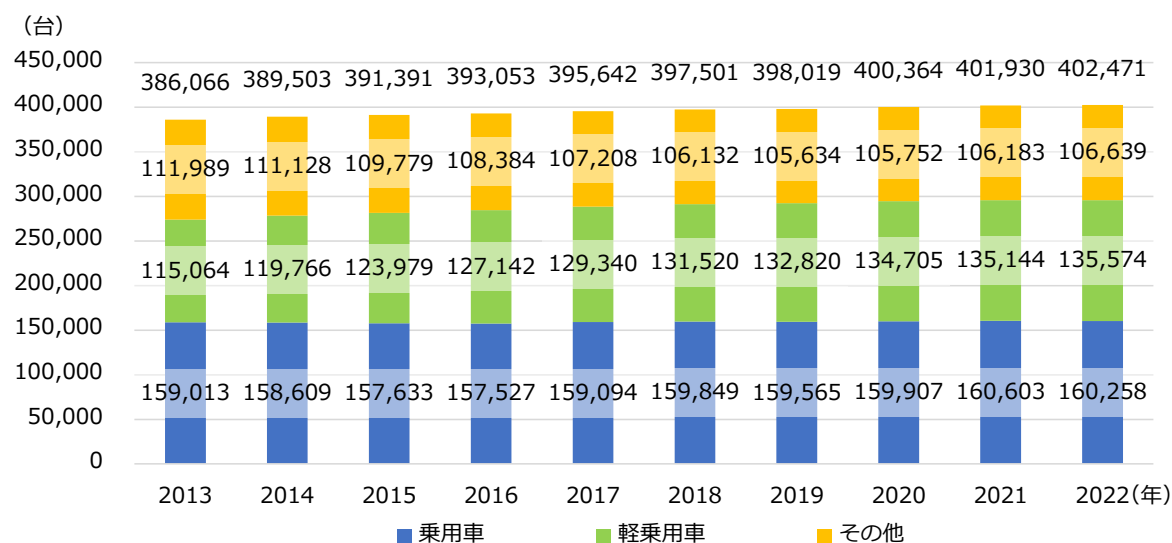
鉄道は、東西方向に JR 山陽新幹線、JR 山陽本線が、四国や山陰を結ぶ南北方向に JR 本四備讃線、JR 伯備線が運行されています。また、倉敷地域と水島地域を結ぶ水島臨海鉄道、真備地区には井原鉄道も運行されています。



▲市の公共交通ネットワーク

出典：倉敷市都市計画マスタープラン

自動車保有台数を見ると、乗用車と軽乗用車の総数は増加傾向にあり、2022 年には 295,832 台(2013 年度比で 7.9%増加)となっています。内訳を見ると、乗用車が 0.8%増加、軽乗用車が 17.8%増加しています。

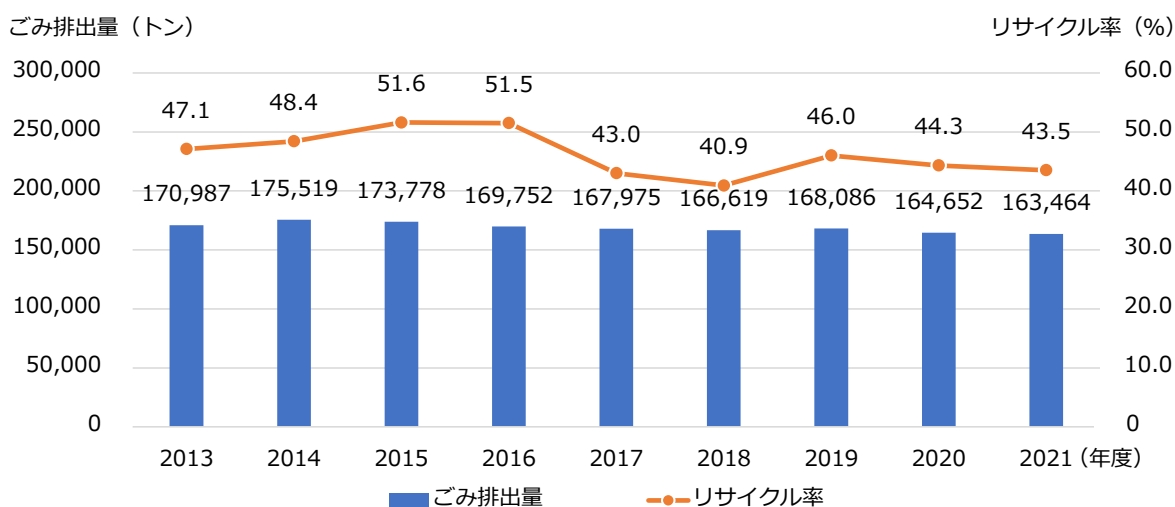


▲市の自動車保有台数(乗用車は各年 3 月 31 日現在、軽乗用車は各年 4 月 1 日現在)
出典: 倉敷市統計書

6 廃棄物

本市のごみ排出量は、増減を繰り返しながらも徐々に減少しており、2021 年度には 163,464 トンとなっています。リサイクル率については、2005 年度から資源循環型廃棄物処理施設が本格稼働したことから、高い水準で推移しており、2021 年度には 43.5%となっています。

一方、資源循環型廃棄物処理施設分を除いたリサイクル率は、2021 年度に 10.8%と低水準であることや、ごみ排出量が依然高水準で推移していること等から、より一層のごみ減量、資源化が求められます。



▲市のごみ排出量・リサイクル率の推移
出典: 倉敷市清掃事業概要